

令和8年2月 剣道段位審査会学科試験問題【解答例】

番号		氏名	
----	--	----	--

※番号は記入しないこと

所属	剣道連盟
----	------

【五段】

(1)「剣道指導者としての心構え」について述べなさい。

剣道の修錬で指導者はもっとも重要な立場にあり、指導者が適切な指導をしているか否かは指導を受ける者の人間的な成長や技術的な成長のすべてを決定していると言っても過言ではない。

剣道では指導者と指導を受ける者とが、互いに身体をぶっつけ合って修錬することが多いので、指導者の人格や技遣いが、指導を受ける者に肌をとおして直接受け入れられ、影響を及ぼすことになる。基本的な心構えを列挙すれば下記のとおりである。

1. 確固とした信念と情熱、愛情と誠意を持って指導する。
2. 指導を受ける者の人格と個性を尊重しながら指導する。
3. 自らの人格を養い、信頼される指導者となるように努力する。
4. 指導を受ける者とともに修錬に励み、技能の向上に努める。
5. 能率的、合理的な指導法の研究を心がけ、指導を受ける者が理解しやすい指導の方法を研究する。
6. 指導を受ける者の健康や安全に留意する。

(2)「日本剣道形太刀3本目及び小太刀2本目での指導上の留意点」を、それぞれ3つ(3本目)と2つ(2本目)を箇条書きにせなさい。

太刀の形3本目

- イ. 打太刀は的確に水月を突き、手元が上がらぬように注意させる。
- ロ. 仕太刀は突き返したら、更に突きの氣勢で位詰めに進むのであって突くのではないから、その時剣先は突き出さぬようにさせる。
- ハ. 仕太刀がやや早く位詰めに進み、剣先を顔の中心に付けた後、元の位置に戻るときは、打太刀の始動と呼吸を合わせて引き始めさせる。

小太刀の形2本目

- イ. 打太刀は一拍子に脇構えから正しく上段に振りかぶり、真っ直ぐにうち下ろし、斜め打ちにならぬよう注意させる。
- ロ. 仕太刀は残心をとる時に、ことさら体を進めて接近しないようにさせる。